

5月19日の選考委員会で、『第4回日産財団理科教育賞』の大賞候補を以下の4件に決定いたしました！7/27(水)新横浜プリンスホテル4F「千鳥」で行われる第4回理科教育賞贈呈式で、候補校による成果発表が行われ大賞と理科教育賞が決定します。また、惜しくも大賞候補の選にもれた2013年度助成校・団体28件の成果報告ポスターを展示し、投票で贈呈式参加の先生方が選ぶ理科教育賞ポスターセッション(副賞20万円)を決定し、褒賞いたします。

— 日産財団理科教育賞 —

子ども達の科学的思考能力や、教師の指導力を向上させる教育実践において、多大な成果をあげ、かつ成果の波及効果が期待できる実践に『日産財団理科教育賞』を授与します。その中で、特に2年間の実践による「学びの質の向上」(伸び代)が大きいと判断された実践を『大賞』に認定します。(大賞は該当なしの年もあり)

**大賞 : 100万円 理科教育賞 : 50万円**

【神奈川県代表】

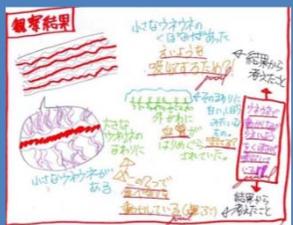
横浜市立井土ヶ谷小学校

『自然を読み解く力を育てる表現と学び合い』

～子どもがひろげる躍動的な学び～

「自然を読み解く力を育てる表現と学び合い」をテーマに、子どもが主体となった協同的な学びの中で「自然を読み解く力」を身に付けられるようにする。表現は、自分の考えを自分自身で認識したり、他者とコミュニケーションしたりするための強力なツールである。また、学び合いは自然に対する新しい見方や考え方である「学級の知」をつくりたり、一人ひとりの考えを深めたりするために必要である。そこで、表現と学び合いを手立てとして、「自然を読み解く力」を育てるための授業をデザインする。

自然とのかかわりを通して、子どもたちは自分のもつ経験や既習事項から思考を始め、子どもたちの表現を通して学習を進めていく。教師は子どもたちの多様な表現の奥にある科学的な考えを見出すとともに、子どもたちがその価値に気付き、認め合い、新しい考えをつくり出せるように授業をデザインする。



【栃木県代表】

栃木県小学校教育研究会宇都宮支部理科部会

『見つける 生かす 考える 自然への新たな思いがふくらむ  
理科学習 -考察の活動を深めるための 授業のあり方-』

考察活動を深める理科授業の在り方について検証することにより、宇都宮市内小学校教員の理科授業力を高める。具体的には課題を明確にし、考察する必要性のある授業展開の工夫、一人一人が十分に自分の考えを持ち、相違点を検討する場の工夫である。

観察・実験の結果から考察する活動が深まるようにするため、教材を検討したり授業展開のしかたを工夫したりする。さらに、その後の話し合いの仕方についても形態や教育機器の使用等について改善を行う。特に、市内全小学校に公開した第4学年「ものの温度と体積」について紹介するが、3～6学年それぞれに20名ほどの研究部で検討し授業研究を行う。



【福岡県代表】

福岡市立四箇田小学校

『科学的な見方や考え方と』

その基礎を育てる生活科・理科学習指導法  
～子どもが実感できる学習活動の工夫を通して～

事象のもつ「よさ」や「実証性」・「再現性」・「客観性」を児童が実感できる学習活動を工夫し、科学的な見方や考え方やその基礎育てていくことを目的としている。

そのために、  
生活科：対象に直接かかわる場の設定の工夫、繰り返し対象とかわり得られた気付きを表現するための表現活動の工夫  
理科：事象の変化がより顕著に表れる実験の工夫、結果の具体的な記録や結果から考察を導きやすい学習プリント等の工夫、自分の考えを積極的に伝えていく交流の工夫、確かめの活動(観察・実験)の場の設定



【福島県代表】

新地町立尚英中学校

『ものづくりを通してのエネルギー学習』

原子力発電所の事故により双葉郡や南相馬市からの区域外就学生徒を受け入れている相双地区では、これからの日本のエネルギー政策について興味・関心を持ち、正しい知識を身につけ、自分の意見を述べる事ができる生徒を育てることが重要視されている。そこで、1年生の総合的な学習の時間を「ものづくりを通したエネルギー学習」とし、再生可能エネルギーを中心とした発電機の自作や研究に取り組み、エネルギーに関する興味関心の喚起と思考力、判断力、表現力の育成を図る。以下の5つのエネルギー実験を準備し、発電方法について実感を伴い理解させた。また、調べ学習を行い、発電を今後の新地町にどう生かすかを考えさせ、壁新聞にまとめる。

- ①ペットボトルを用いた水力発電機の製作
- ②ソーラーパネルを用いたソーラーハウスの設計
- ③ペルチェ素子を用いた熱発電装置の製作
- ④風力発電機の製作・風力発電機を用いた実験
- ⑤自転車発電機の製作

